



地球上のあらゆる領域や歴史や季節などの情報を入手でき、宇宙の果てについても膨大な量の知識を得ることができる今日でも、そうした「量」とは無関係に、何か本質的な別ものがあることに、私たちはまだ気がついていないかもしれません。

短命な存在を憐れんでいる私たち自身が、その背後から誰かに哀れまれているかもしれない。

私たちこそセシミのようなものとして、別の世界、別の宇宙にも、思いをはせてみるべきなのかもしれません。

